

# 新しい時代への決意

一般財団法人山下太郎顕彰育英会  
代表理事理事長 山下 和 男



財団設立のルーツを遡ると山下太郎に行き着きます。太郎の生涯は当ホームページ年譜に掲載してあるとおりでありますが、世界中を駆け回り様々なことに果敢に挑戦した国際的実業家でした。還暦を迎えた時でさえ石油開発による日本経済の再興に情熱を燃やし、アラビア湾で石油採掘に挑戦し、最初の試掘で見事に大油田を掘り当てるといふ快挙を成し遂げた強運の持ち主でもありました。その一方で、太郎は教育の重要性を深く認識し、修学心に燃える若者たちの雄飛のために物心両面にわたる応援を惜しみませんでした。残念ながら病には打ち勝つことができずに78歳で波乱に富んだ生涯を閉じますが、その遺志は妻文子に引き継がれ、別記設立趣意書を以て平成元年10月1日「財団法人山下太郎顕彰育英会」が設立されました。

財団設立時の日本経済は、バブルの絶頂期にありましたが、その後間もなく訪れたバブル崩壊により、社会経済の先行きを予測することが難しい時代となりました。当財団運営に対する影響も例外ではなく紆余曲折から存続が危ぶまれたことがあったことも事実です。そのような時期と重なり、公益法人制度改革により財団の運営体系を見直す決断を促されることになりましたが、一般財団法人という選択が結果的に功を奏したといえます。勿論その背景には、財団関係者の努力が実を結んだものであり、この頃が財団にとって平成の時代を象徴する大きな試練の時期であったような気がします。今なお財団設立時の基金を維持していることを思うと、太郎が座右の銘とした「誠実一路」は、時代が変わっても私たちにとって普遍の精神であると実感しております。

結びに、今後財団を取り巻く環境はさらに厳しくなり、また、少子化によって教育環境も今までとは違った形態に移っていくことが予想されます。財団設立趣意書に掲げられている理念を礎にしながらも、今後は、目まぐるしく変化するであろう社会経済情勢を適切に捉えて、時代に合った育英事業の展開が求められてくると思います。その期待にしっかり応えていくためにも、これまで得られた多くのご縁を大切に、地域とともに末永く逞しく歩み続けられる財団を目指してまいります。

(令和元年5月)